

## 2年次選択科目 産科婦人科臨床研修プログラム

### 1. 研修施設

獨協医科大学病院

### 2. 研修期間

2年次の1か月～6か月間とする（産科と婦人科を各2か月の計4か月間を基本とする）

### 3. 指導体制

指導責任者： 深 澤 一 雄 教 授

主任指導医： 茂 木 絵 美

### 4. 研修内容

- (1) 外来：指導医の助手として外来診察を行い、外来における産婦人科疾患の基本的な診察・検査・治療法を習得する。また当直研修では、救急外来で緊急時の対応を経験する。
- (2) 病棟：指導医の下で、入院患者を受け持って診察、検査、治療を行う。担当患者の手術、処置には助手として立ち会う。また指導医と共に当直を行い、入院患者管理、急変時の対応を経験する。
- (3) その他：教授回診、産科・婦人科カンファレンス、研究会・抄読会、医局会に参加する。

### 5. 研修目標

#### (1) 一般目標 (GIO)

- ① 産科婦人科疾患の診断と治療に必要な基本的な診察法・検査法を習得する。
- ② 代表的な産科婦人科疾患を実際に担当医として経験し、その治療法を習得する。
- ③ 正常妊娠・分娩・産褥ならびに新生児の管理に必要な基本的知識および技術を習得する。

#### (2) 到達目標 (SBO)

以下にあげる経験すべき診察法・検査・手技および症状・病態・疾患を研修する。

#### A. 経験すべき診察法・検査・手技

##### (1) 基本的な産婦人科診察方法の習得

###### ① 問診および病歴の記載

患者との間に良いコミュニケーションを保って問診を行い、総合的かつ全人的に patient profile をとらえることを目標とする。問題解決志向型病歴 (Problem Oriented Medical Record : POMR) を習得する。(主訴、現病歴、月経歴, 婚姻歴、妊娠・分娩歴、家族歴、既往歴)

## ② 産婦人科診察法

産婦人科診療に必要な基本的態度・技能を身につける。

- ・ 視診（一般的視診および腔鏡診）
- ・ 触診（外診、双合診、内診、直腸診、妊婦の Leopold 触診法など）
- ・ 穿刺診（Douglas 窩穿刺、腹腔穿刺その他）
- ・ 新生児の診察（Apgar score, Silverman score その他）

## (2) 基本的な産婦人科に関する臨床検査

産婦人科診療に必要な種々の検査を実施あるいは依頼し、その結果を評価して、患者・家族にわかりやすく説明することを目標とする。妊産褥婦に関しては、禁忌である検査法や避けた方が望ましい検査法があることを十分に理解しなければならない。

### ① 婦人科内分泌検査

- ・ 基礎体温表の診かた
- ・ 頸管粘液検査
- ・ 各種ホルモン検査

### ② 不妊検査

- ・ 基礎体温表の診かた
- ・ 卵管疎通性検査
- ・ 精液検査

### ③ 妊娠の診断

- ・ 免疫学的妊娠反応
- ・ 超音波検査

### ④ 感染症の検査

- ・ 膣トリコモナス感染症検査
- ・ 膣カンジダ感染症検査

### ⑤ 細胞診・病理組織検査

- ・ 子宮腔部細胞診
- ・ 子宮内膜細胞診
- ・ 病理組織生検

（これらはいずれも採取法も併せて経験する。）

### ⑥ 内視鏡検査

- ・ コルポスコピー
- ・ 膀胱鏡
- ・ 子宮鏡

### ⑦ 超音波検査

- ・ ドプラー法

- ・ 断層法（経腔的超音波断層法、経腹的超音波断層法）

#### ⑧ 放射線学的検査

- ・ 骨盤単純 X 線検査
- ・ 骨盤計測（入口面撮影、側面撮影：マルチウス・グースマン法）
- ・ 子宮卵管造影法
- ・ 腎盂造影
- ・ 骨盤 CT 検査
- ・ 骨盤 MRI 検査

#### (3) 基本的な薬物治療法

薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬を含む）ができる。

ここでは特に妊産褥婦ならびに新生児に対する投薬の問題、治療をする上での制限等について学ばなければならない。薬剤の殆どの添付文書には催奇形性の有無、妊産褥婦への投薬時の注意等が記載されており、薬剤の胎児への影響を無視した投薬は許されない。胎児の器官形成と臨界期、薬剤の投与の可否、投与量等に関する特殊性を理解することは必要不可欠なことである。

#### ① 処方箋の発行

- ・ 薬剤の選択と薬用量
- ・ 投与上の安全性

#### ② 注射の施行

- ・ 皮内、皮下、筋肉、静脈、中心静脈

#### ③ 副作用の評価ならびに対応

- ・ 催奇形性についての知識

### 6. 経験すべき症状・病態・疾患

#### (1) 産科関係

- ・ 妊娠・分娩・産褥ならびに新生児の生理の理解
- ・ 妊娠の検査・診断
- ・ 正常妊婦の外来管理
- ・ 正常分娩の管理
- ・ 正常産褥の管理
- ・ 正常新生児の管理
- ・ 腹式帝王切開術の助手の経験
- ・ 切迫流・早産の管理
- ・ 産科出血に対する応急処置法の理解

## (2) 婦人科関係

- ・ 女性骨盤内の解剖の理解
- ・ 視床下部・下垂体・卵巣系の内分泌調節系の理解
- ・ 婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画の立案
- ・ 婦人科良性腫瘍の手術への第2助手としての参加
- ・ 婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解（見学）
- ・ 婦人科悪性腫瘍の手術への参加の経験
- ・ 婦人科悪性腫瘍の集学的治療の理解（見学）
- ・ 不妊症・内分泌疾患患者の外来における検査と治療計画の立案
- ・ 性感染症の検査・診断・治療計画の立案

## (3) その他

- ・ 産婦人科診療に関わる倫理的問題の理解
- ・ 母体保護法関連法規の理解
- ・ 家族計画の具体的方法・カウンセリングの理解

## 7. 診療・研修の特徴

- (1) 研修は産科と婦人科に分かれて実施、各2ヶ月間で計4ヶ月間の研修を基本とするが、研修期間にともない調整可能である。
- (2) 総合周産期母子医療センターとして、地域のハイリスク妊娠などが集中しており多岐にわたる症例を経験、高度な周産期医療の研修が可能である。また年間分娩数は約900例あり、正常分娩なども十分な症例数を経験する事ができる。
- (3) 年間手術件数は600例以上あり、婦人科では悪性腫瘍手術を含む多くの症例を経験できる。腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術も積極的に行っており、また婦人科特有のアプローチである膣式手術も数多く研修できる。
- (4) 一般的な不妊治療のみならず、体外受精・胚移植、顕微授精など高度生殖補助医療の習得が可能である。
- (5) 専門外来制が細分化されており、効率よく各種疾患の外来管理の習得が可能である。  
周産期：超音波外来、ハイリスク妊婦外来、感染症外来、遺伝相談外来  
婦人科：腫瘍外来、コルポスコピー外来、デイスার্ジェリー（子宮鏡、レーザー治療）  
生殖内分泌：思春期・中高年（更年期）外来、不妊外来、内膜症外来

8. 研修に関する週間スケジュール（担当指導医により多少異なる）

	午前（8:00～12:00）	午後（13:00～18:00）	18:00以降
月	医局会（8:00～9:00） 外来／病棟研修	産科カンファレンス 婦人科カンファレンス	抄読会・研究会（18:00～）
火	外来／病棟研修 手術（第二助手） （妊婦健診外来）	外来／病棟研修 手術（第二助手） （超音波外来）	
水	外来／病棟研修 生殖補助医療研修 （婦人科一般外来）	外来／病棟研修 （コルポスコピー外来）	
木	外来／病棟研修 手術（第二助手） （妊婦健診外来）	外来／病棟研修 手術（第二助手） （ハイリスク妊婦外来）	NICU との周産期カンファレンス（18:00～19:00）
金	教授回診（8:00～9:30） 外来／病棟研修 （教授外来）	外来／病棟研修 手術（第二助手） （腫瘍外来、更年期外来）	
土	病棟研修		